

I T A アグラ報告 WG15 建設環境

太田技術事務所代表 太田 義和

開催日時 2008年9月21日、 22日

場 所 J Pパレスホテル

参加国 7カ国 タイ、イタリア、シンガポール、日本、韓国、米国、ノルウエー、加えて現
I T A会長M、ナイト氏も参加し当WGの今後の作業について話し合った。

担当役員 イン・モー・イー氏（韓国）

部 会 長 ジャン、ローデ氏（ノルウエー）

1. 作業部会概要

当作業部会は会長を含む理事会から3項目にわたる論評を受け取った。これ等の論評の要点は地下空間建設に関わる環境問題と社会的影響について下記の通り記述されており、関連する他の作業部会との調整を行いつつ作業を実施する。

- 1) 地下空間建設の利点と機会。
- 2) 地下空間建設促進への挑戦
- 3) 地下空間建設にあたっての環境問題に関する勧告と指針。

第1の課題は既に「現在および将来の地下空間の建設促進」の報告書に採択されており、作業内容としてWG20（都市問題と地下空間による解決策）およびI T A C U Sとの作業内容と重複しておりWG20の作業部会長および副部会長との会談も実施した。

作業部会では4件の報告があった。

イタリアからは鉄道トンネル建設時における掘削土に含まれるアスベストの輸送問題と地下水汚染に関する報告があった。

米国からの報告は国道710号線の建設に関する地下水脈への影響及び全般的な環境問題とそれらの解決方法についての報告の他、カリフォルニア州における水路トンネルの紹介、ロサンゼルス地方での掘削残土処理、振動問題などの報告があった。

ノルウエーからは産業廃棄物処理のための地下空間建設に関する環境問題。都市域におけるトンネル建設のための環境問題、問題可決のための勧告文書の紹介などがあった。

タイからはバンコク市内の地下鉄延伸工事に関する都市域の地下水脈に与える影響、すなわち地下水脈変動、地盤沈下、或いは残土処理問題に関する報告があった。

韓国とシンガポール両国は地下空間（鉄道トンネル、核廃棄物地下備蓄施設、地下空間開発のマスタープラン作成など）の環境問題に共通な課題を抱えていることも明らかになった。

今後の計画として2009年のブダペスト会議に報告書素案を作成し、トンネル工事に関する環境問題解決のための指針、勧告書等文書を2010年の会議までに準備することを予定している。最終的なまとめにあたっては、WG20（都市問題と地下空間による解決策）、I T A C U Sとも十分な調整を行って普及させることとしている。

2. その他

J T Aとしては本作業部会へは不参加の予定であったため特別に資料は準備していなかった。しかしながら筆者（太田）は当日に部会長、副部会長からその参加を強く要請されたため2日目（9月22日）に本来の参加予定であったWG3（契約実務）会議の後、17時から本WGの部会長（Jローデ氏、ノルウエー）、副部会長（Jカネシロ氏、米国）と3名で会議を実施した。したがって筆者は参加国の方々を交えたWGには参加していない。

本WGの方向として2010年を目途に指針（勧告書）を纏めることが内定していたにもかかわらず部会終了時にその方向性が見えていなかったため、急遽、筆者が「全体目次案の素案」（骨子）を23日に現地で作成し24日に部会長、副部会長に手渡した。「この骨子に基づいて各部会参加者が執筆可能な部分を担当すること」等を部会長名で部会参加者に連絡を取ることで合意した。基本的に、抽出すべき環境問題に関わるインパクト項目は、計画条件、地下施設の種類によって異なるが、ほぼ世界的に認知しうる共通部分がある。一方でインパクトに対応する各国及び公的機関の定める許容限度（受忍限度）は自然条件、プロジェクトの立地条件、各国の政治、社会状況、国民性、等によって異なる。したがって指針等の文書を纏めるにあたっては、各地下施設と各環境インパクトとの関係と収集した情報の範囲内において適切と判断される事例を紹介することを重点とすることとした。

以上